

次はどこに遊びに行こう

シンヤさんは、平日の朝ごはんと週3回の夜ご飯時に、こども食堂を開催しています。

今日はシンヤさんから、こども食堂で出会った、当時小学3年生のりょーたくんとのお話を伺いました。

登場人物

シンヤさん
(運営者)

りょーたくん
(小学3年生)

1 近所の気になる泣き声

19時半にこども食堂が終わって子どもたちを家に送って行っているとき、ある家の前を通ると、小学生くらいの男の子がいつも尋常じゃない泣き方をしてるんですよ。

それでずっと、すごい気になってたんですよ。

START!



2 りょーた、こども食堂へやってくる

りょーたは、当時完全に不登校でした。学校の担任の先生が、スクールソーシャルワーカーの先生に相談して、近くにこども食堂あるよってことで、紹介してもらって、来るようになったんですね。

3 図書館できたんだってよ! 行ってみようぜ

りょーたが、うちの食堂に食べに来るようになって、朝食もやってるよってところで、朝もご飯食べに来るようになったんです。

わたしがこう、“叱るより喧嘩”みたいな、一緒になって言い合いするみたいな感じで接するタイプなので、打ち解けるまでそんなに時間はかからなかったかな(笑)。

毎日顔を合わせて、自転車乗ってサイクリング行こうよとか、図書館ができたから行ってみようよとか、児童館で卓球やバトミントン、公園でサッカーやキャッチボールなんかもしたかな。表に出るのがすごい好きな子なので、ちょいちょいあちこち行ったりとかしましたね。

そんなところで絆を深めていったというか、それでちょっと変わってきたかな。



次はどこに遊びに行こう

4 「俺、去年の今頃は、不登校だったんだよね」

それで朝、こども食堂でのご飯の後は、みんな学校まで送って行ってるのもあって、自然と学校に行けるようになったんですね。ついこの間、「去年の今頃は、俺は不登校だったんだよね」って自分で言えたんだよね。不登校だったのが、本人の中でもう過去のことでなくなって、すごい進歩したなって思ったのがありますね。



POINT

こども食堂でたくさんの経験を共有し、不登校を自分の中で、過去のものとして消化できた。

5 泣き声の理由

夜、なんで泣いてたのかっていうのは今もわからない。

ただ、母子家庭で、6年生のお姉ちゃんがいるんだけど、お母さんとお姉ちゃんが、何かちょっと気に入らないことがあると、もうものすごい責め立てるんですよ、りょーたを。

前にりょーたをお家へ送っていったときも、そういうことがあって、りょーたは電柱の陰に隠れて頭もくっつけて、ずうっと動かない状態で隠れてるんですよ。

お家での居場所が少ないのかなあって思ってたね。

今はもう、うち（こども食堂）でものびのびして、おれの悪口言ったりとか（笑）からかってくるようになってくれたんで、うちに来て少しはいい方向に行ってくれたのかなあなんて。

いろんなところに行って、こども食堂でいろんな人に会って、見てきて、りょーたはりょーたで大丈夫なんだって、自分に余裕が出たんじゃないかな。



ここが素敵！

by あっちゅん

不登校の子が、学校に行けるようになったって、結果もすごいんですが、朝一緒にご飯を食べたり、ちょっと遠く自転車で一緒に出かけてみたり時には一緒になって言い合いをしたり、こういうこども食堂での日常一つ一つを大切に積み重ねながら関係を構築していった結果、不登校が本人の中で過去のものになっていった過程がすごくあたたかいです。

ママ友として

カズコさんは子育て支援を大事にしたこども食堂を運営されています。近くに児童発達支援施設があって、その施設から帰るお子さんがよくいらっしやるそうです。

今日は5歳の娘さんがいるお母さんと出会ったお話を聞かせていただきました。

登場人物 /

カズコさん
(運営者)

お母さん
(5歳の娘さんがいる)

① アンケートで大変と答えたお母さん

うちのこども食堂はコロナになってから、こども食堂は中止してフードパントリーをやってお弁当を渡すようにしたんです。パントリーをやるのは初めてだったんで、利用者アンケートをとらせてもらったんですよ。その時に5歳の娘さんと一緒に来ていたお母さんは、今の困り度がすごい高いって答えてたんですよ。ひとり親家庭のお母さんだし、コロナで仕事も休めって言われていてすごく不安だって言っていたから、気にしていたんです。

START!



POINT //

アンケートの結果から
気になっていて、
気にかけていました。

② こども食堂仲間で見守る

うちの市では、毎月のフードパントリーの申込は一斉合同で行うので、今月どなたがどのパントリーに申し込まれているかは各食堂責任者だけにわかります。とても気になる方がその月に自分のところに申し込んでいないときでも、別の食堂のパントリーに申し込んでいることがわかると、ほっとします。私のところの人、でなくて、みんなで見守る人、になっています。



POINT //

同じ市のこども食堂同士で
連携して、気になる方を
見守っていました。

③ 「ほかの困ってる方に渡してください」

その仕組みのおかげで、そのお母さんは今年3月に他のパントリーに来てたことが分かって、5月にはうちのパントリーに来たの。でも6月は来なかったから、私から「今回はいいですか?」ってきいたんです。そしたらお母さん、「いいんですか?」「私は前にもらったので、今回はほかの困ってる方に渡してください。」っておっしゃったんです。ご自分もすごく困ってるはずなのに、他の方を気遣うのって、魂が素敵だなんて思って、この人は絶対守ろうって思ったの。

4 お母さんへ電話

その電話で、私は「たくさんあるので大丈夫ですよ、ぜひ来てください」ってお伝えしたんです。お子さんが障がいもあって、ひとり親家庭でもあって、子育てが大変そうだったのは分かっていたので、私たちが人として支えたいなって感じて。私自身も子どもがいるんですけど、ママ友として仲良くしようっていうイメージで接しています。



\\ POINT //

お母さんに
「してあげる」関係ではなく、
友達のような関係を
目指しました。

／ ここが素敵！ ／

サポートの視点をもちつつ、お母さんと同じ目線でママ友のように関わる対応がとても素敵だと思いました。だからこそお母さんにとってもカズコさんが大事な繋がりになっていったのですね。こども食堂同士の連携で気になる方を見守る仕組みも素敵です！

第3章

こども食堂の“暖かさ”

じっくり時間をかけて
子どもやお母さんと関係をつくっていく過程や、
そのなかで出会った
心あたたまるエピソードをまとめました。

花柄のテーブルクロス

カズヒロさんは、3年前、近所のご夫婦とこども食堂を始めました。2020年5月ごろからは、会場だった公共施設がコロナウイルスの影響で利用できなくなり、個人の家でのこども食堂をつづけました。カズヒロさんは、3年くらい前からこども食堂に来ていたある姉妹を、ずっと心配で気にかけていました。

今日は、カズヒロさんから、その姉妹とそのご家族との話を伺いました。

登場人物 /

カズヒロさん
(運営者)

姉妹
(小2の女の子、小1の女の子、
4歳の男の子)

姉妹のお母さん

① 気になる姉妹

こども食堂に来ている子たちの中に、前からちょっと気になってた姉妹がいてね、PTAのお母さんたちが、その子たち、ちゃんと食べさせてもらえてないんじゃないかって。でも、あくまで聞いた噂をそのまま受け取るのもなあって思って、こっちからいろいろ言うことができなかったのね。

そういう、気になるけど詳しい事情は聞き出せないって状況が2年ぐらいあってね。注意深く、でもまずは楽しくと、やってきました。



START!

② ある日...

お母さんから、子ども3人を連れて家出をしてきたって連絡が来て「お父ちゃんが、毎晩朝まで酔っ払って、わけわかんなくなってる、子どもたちを叩いたりしてる」と。「もう嫌だから出てきた」と。

とにかく私のところにお母ちゃんと子どもたちを泊めて。

すぐに、市の子育て相談室のヨシダ君っていう若いのが頑張ってるから、そこに連絡したら虐待の心配もしなきゃいけないってことで、警察やら児童相談所やらと連絡を取ってくれてね。



1年2年...と、もどかしくも日々のお付き合いがあって、こういう「きっかけ」があったときはじめて、「あそこのおじちゃんたちにだったら」っていうように思ってくれたんでしょうね。

③ 1週間の避難生活

2、3日して、お父さんとの調整を始めたんだけど、隣の県からお母さんの両親にも来ていただいて話し合いをしてもらったりして。

何とかね「絶対に手を上げない」と、それから「お酒をやめる」というふうな約束をして、お家に戻って生活できるようになったわけ。結局、うちには4日間、実家にも行って、合計1か月近く避難生活だったね。

花柄のテーブルクロス



4 やさしい“おせっかい”

おうちに戻るとき、おうちの片付けも一緒にやってね、もう足の踏み場もない状況だったから。

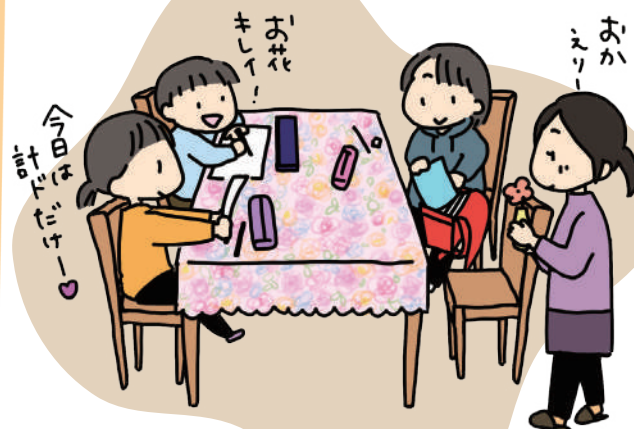
それからテーブルも男たちで手作りして運び込んで、「このテーブルだけはキレイにしておいて、物を置かないようにするんだよ」なんて言って。

テーブルと椅子を運んで、そういうお手伝いをしながら色々話をして、おうちにも入れるような関係になってね。

5 花柄のテーブルクロス

そしたらね面白かったのは、テーブルを作って、可愛いカバーをかけてキレイにしといたらね、お母さんが「こどもらが学校から帰ってきた途端に自分たちで宿題を開いて、3人が3人とも宿題を始めた」「こんなのは初めて」って言うんですよ。

期待はしてたものの、本当にそうなるのは嬉しかったね。
お母さんも喜んでたしね。



6 長い時間、たくさんの日々の積み重ねが…

こども食堂でね、何となく気になって、でもはっきりしなくて、そのまま流れてるような付き合いであっても、1年2年とするうちに、何かあったときに、役に立つことができるのかなって、この時初めて思いましたね。

月に1～2回でも、こども食堂でお付き合いがあるっていうことはそういう意味ですごく大事なことかなあと、思ってます。



ここが素敵！

by いとう

時間をかけて関係性を丁寧に築いていったカズヒロさんのあたたかいお人柄を感じました。だからこそ緊急時に顔が浮かぶ存在になっていたのですね。花柄のテーブルクロスのテーブルを子どもたちもお母さんも喜んでいる様子が目に浮かびました。

わたし、シングルだって分かる？

ヤスコさんは、東京都のある地域で、3年ほど前に自宅でこども食堂を立ち上げました。今は公共施設を借りて、毎月2回実施しています。新型コロナウイルスの影響でこども食堂ができなくなったため、自宅でのフードパントリーに切り替えて活動されています。

今日はヤスコさんから、1年前に出会った小学5年生のくみちゃんと3年生のこうたくん、その2人のお母さんとの話を伺いました。

登場人物 /

ヤスコさん
(運営者)

くみちゃん
(小学生・姉)

こうたくん
(小学生・弟)

2人のお母さん

① 地域のお祭りでの出会い

START!

くみちゃんとかうたくんと初めて会ったのは、地域の夏のイベントで、2人がミニコンサートに出演してた時なんですよ。ステージが終わった後にお母さんとちょっと話すことがあって、うちのこども食堂を紹介したんです。

くみちゃんとかうたくんの家がシングルだってことは、実は人づてで聞いてただけで、本人からは直接聞かないでいたの。たまにこども食堂に来ないこともあったあから、その時はどうしたのって電話したこともありましたね。



POINT //

こども食堂に来なかった時に
電話で連絡をとり、
気にかけていました。

② 「シングルだって、分かる？」

お母さんはしゃべりたいことがいっぱいあったみたいだから、しばらくは話を聞くことに徹底してたの。それから2、3か月したころだったかな、お母さんが私に、「シングルだって分かる？」って言ってくれたの。私は、「分かるよ」って言ったの。お母さんは「やっぱり分かります？」って笑いながら言っていたんだけど、わたしは「気にしないでいいのよ、色んな人が来てるんだから。シングルの人だっていっぱいいるから」って話をしたの。



// POINT //

少しずつ信頼関係を
積み重ね、悩みを
話してくれました。

③ 話を聞いていくと…

シングルだってことを言ってくれてから、一線を越えたのか、毎回来てくれるようになって、積極的に話しかけてくれるようになったの。うちのこども食堂は参加人数も多いから、毎回同じスタッフがお話できる訳じゃないんだけど、スタッフの間ではこのご家庭のことは共有しておいたのね。お母さんはそんなにおしゃべりな方ではないんだけど、話を聞いてると、少しずついろんな話をしてくれたのよ。

わたし、シングルだって分かる？

4 学校のこと…

話をたくさん聞くようになって、くみちゃんとこうたくんの学校のことになってね、実はふたりとも学校に行けてなかったんだって。こども食堂ではふたりとも大人しい様子だったし、全然わからなかった。でもコロナの影響で一回学校が休みになって再開してからは、ちょくちょく行けてるみたい。何でかは詳しく知らないけど、よかったねって話したのよ。



POINT

くみちゃんの勉強会での様子も見ていて、気に留めていました。

5 実は勉強会にも来ていた

そういえば、うちのこども食堂はコロナになる前は、こども食堂の前に勉強会をやってて、くみちゃんも来てたのよね。勉強会では、スタッフが子どもたちに勉強を教えてたんだけど、くみちゃんがやけに男性のスタッフを独占しようとしてね。これはどうしようかなって思ってたときにコロナの影響で勉強会ができなくなっちゃって、勉強会はできなくなってたんだけど、くみちゃんのことは気になってたんだよね。

6 コロナ禍のフードパントリーにて

コロナの影響でこども食堂ができなくなってからはフードパントリーに切り替えてやってたんですけど、くみちゃんとこうたくんは来なくてお母さんが1人で取りにきてるんですね。お母さん、ぐったり疲れてる時もあるし、時間に間に合わないって連絡が入ることもあるの。コロナ禍で仕事も大変だろうし、これからもつながりは続けて、見守っていきなうって思っています。



POINT

フードパントリーになっても関係は続き、くみちゃんとこうたくんの家庭の支えになりました。

ここが素敵！

by やまかど

ヤスコさんがお母さんを温かく受け入れて、少しずつ心の距離が近くなっていったからこそ、「わたし、シングルだってわかる？」って言ってくれたのかなってと思うと、本当に素敵な関係だと思います。コロナ禍での活動の様子も見学させていただきましたが、ヤスコさんが皆さんに愛されているなうっていうことを肌で感じて、本当にあったかいこども食堂です！

「困っている子」なおくん

ハルさんは、地域でこども食堂を月に1回開催しています。
近くの大学の学生が、毎回手伝いに来てくれています。

今日は、ハルさんから、こども食堂で出会った小学3年生
の男の子、なおくんとお母さんのお話を伺いました。

登場人物 /

ハルさん
(運営者)

なおくん
(小学3年生)

なおくんのお母さん

① かみつき なおくん

ある日、学生スタッフさんから「なおくんのことなんですけど…、
ぼくがなおくんから離れて、ほかの子と遊んでいると、ぼくに噛み
ついてきたりするんで、やめさせたいんですけど」って相談があっ
たの。なおくん、もともと動きが激しくて、お友達との距離の取り
方が難しい子だなーって思ってたんですけどね。



今日はお兄ちゃん！
って決めると、
もう構ってほしくて
仕方ないんですね。

その話の後、お兄さんに噛みついてきたりしたときは、わいわいした所じゃ
なくて、荷物置く小部屋があるんだけど、そこに行ってお話をするこ
とにしたの。「なおくんの気持ちわかるよ。でも、今は、〇〇だから遊べ
ないんだ」「あと〇分待っててくれたら遊ぼうね」って。そうやって向き
合ったら、彼はそれで納得できて、かみつき行動もおさまったのよ。

START!

② お母さん、もしかしてお家で困ってることないですか

これは、お母さんと話をしないといけないなーと思って、なおくんのお迎
えにお母さんが来たときにお話ししたんだよね。

「なおくん、こんなことがあったんですけど、こういう風にお話ししたらわかっ
てくれました。お母さん、もしかしてなおくんのことでお家で困ってること
ないですか？」って。

お母さんは、いつも車で来て、なおくんをこども食堂へ置いて、お母さん
自身は食堂に入らないの。送り迎えだけだったの。

そうしたら、お母さんぽろぽろぽろ涙こぼしながら、「自分もどうして
いいかわからないところだった」んだって。



そうでしたか、
大変だったんですね。

実は…

なおくんこういう感じだから、
どこにも行き場所がなくて、
習い事に入れてみても、
すぐ『ちょっと困るんで…』
って言われちゃって。

③ お母さんとなおくん、ふたりぼっち

お母さんにしてみれば、どこに行っても居心地が悪い。なおくんにとっ
ても、きっと居心地悪かったんだと思うんだよね。自分を理解してもらえ
ない場所にいるのは。

「困っている子」なおくん

4 「困った子」なんていない、いるのは「困っている子」!

お友達の中で、人との距離がうまく取れない、トラブルになっちゃう子って必ずいるのよね。

彼らは「困った子」じゃないのよ、彼らは「困っている子」なのよね。「この子は何に困ってるのかなー」って考えるのよ。その困りごとに耳を傾けてあげれば、その困りごとさえ解決すれば、周りの子とも仲良くできて、まったく「困らない」のよね。



POINT

子どもの言葉にならない
「困っている」に耳を傾け、
そのままを受け止める。

5 なおくんの「困りごと」

なおくんも、とにかくお兄さんお姉さんが大好きで、遊びたくて「ほかの子にとられる」「もう自分とはあそんでもらえない」と思っちゃうことが怖かったのね。見通しが欲しいっていうか、少し待ってたらまた遊んでもらえるってわかったら、気持ちが落ち着いたのね。

6 いつでも帰ってこられる場所

実はここ最近、なおくんの顔、あんまり見てないのよ。

なおくん、地元の子じゃなくて、車で来ないといけなところから来て、多分お母さんすごい探してたんだよね、居場所を。

いまはきっと、ここに来なくても、楽に息ができるようになったんじゃないかな。いつ来ても受け止めてもらえる場所があるって分かってるからこそ、来なくても大丈夫なんじゃないかな。



ここが素敵!

by あっちゃん

今回のヒアリングでも「お母さん」の登場回数の多いこと! お母さんたちの「子育て」や「孤立」を受け止める場所として、こども食堂が果たす役割の大きさを改めて感じました。噛みつき自体を叱るのではなく、なおくんの気持ちを受け止めて対応された、“そのままを受け止める”ハルさんの姿勢が素敵です。

今回お話を聞かせてくれた

こども食堂運営者のみなさんの思い



バラエティクラブ八王子

廣田 晶子

子どもだけでなく、一人暮らし高齢者など色々な方の居場所になっている。



こどもの居場所作り@府中

南澤 かおり

顔を合わせる、繋がり続けることは、何か一歩進んだ関わりをするときに大切。



寺子屋方丈舎

江川 和弥

ご家族の方とは、お迎えのときに話をするようにしています。



wakka (わっか食堂)

石川 哲也

子どもの将来と一緒に考え、必要であれば一緒に役所や病院に行っています。



くすのき子ども食堂実行委員会

田所 桂子

子どもも大人も来てくれる人の心が和む場所でありたい。



こどもプロジェクト

福田 恵美

こども食堂をしていると、もっと困っている子がいるかもと思う。



秋田たすけあいネットあゆむ

保坂 ひろみ

こども食堂で出会った子どもや家庭に地域でサポートできる全体の仕組みを作っていきたい。



フードバンク北九州ライフアゲイン

原田 昌樹

子ども食堂が地域の大きな家族になれば、きっと小さなSOSの声も聴こえる。



チャイルドケアセンター

大谷 清美

子どもから学ぶ、気づくこともたくさんある。



石川こども食堂

新奥 匠

こども食堂は、おいしく、楽しく、心と体を育てる食事の場になっている。



東吉野村こども食堂

福井 茉莉子

広く、多くの人数と接するけど、1人1人との時間も大切にします。



おのみなとこども食堂の会

岡 定紀

民間の限界も感じる一方で、こども食堂だからできることもある。



ヨリドコピンポン

津守佳代子

一緒に調理したり、イベントも子ども発信のものを実現できるように動く。



よこすかなかながや

和田 信一

3年半活動してきて、何かあったときに「この人なら」というのは、うれしいね。



あーぶくたっ・くれがきっちゃん
(あそびとまなび研究所)

秋葉祐三子

世間話からそれぞれのお家のことが見えなくて、そっと関わり続けられる場所。



労協ながの

廣瀬 唱一

子どもたちと出会う場であり、こども食堂同士が他機関と横で繋がるプラットフォーム。



おやこ食堂「おかえり」・
みんなの食堂「ただいま」

齊藤 恵子

子どもたちが「行きたい!」って思いついたら来られるように用意している。



チアーズ

本間 香

地域のおばちゃんが頼れるんだと思ってくれば。



すくすく広場

戸恒 和夫

形、場所が無くても、つながり続けることがこども食堂。



TSUGA no わこども食堂

田中 照美

来てくれたままの姿を受け止める。それがこども食堂の場だと思っている。



みんなの食堂@府中

藤田 潮

人として、友達として、どこまで寄り添えるか。



ころころ食堂

西塚美津子

しゃべるのが苦手な子が挨拶してくれたら、よく言えたねってほめる。



dattochi みんなの食堂

福澤 恵子

どんな人にも来てほしい。みんなで良くなってほしい。



ハッピーコミュニティ食堂

西本 良行

何を、どれくらい食べたいか、時間はかかっても、コミュニケーションを取りながら配膳する。



放課後キッチン・ごろごろ

石田 裕子

子どもたちあんまり褒められる経験がないので、小さいことでもほめるように声掛けています。



西東京わいわいクッキング

岸田 久恵

子どもたちと一緒に作る食事、学び、遊びの場であり、関係を積み重ねていく地域の居場所。

まとめ

今回のプロジェクトでは多くのこども食堂の方にご協力をいただき、たくさんのエピソードを聞かせていただきました。どのお話でも共通して素敵だなあ…！と思ったのは、皆さんが目前にいる子どもたちやお母さんを心から大切に思っていること、そしてその想いが表現された「関わり」でした。

食堂開催日は、たくさんの人数分の食事を準備したり、子どもたちが入れ替わり立ち替わり参加をして、あっという間の嵐のようです、というお話をよく伺います。その日運営するだけでもとっても忙しいなか、
「〇〇ちゃんがお家のことで気になることを言っていた。大丈夫かな？」「迎えに来ていたお母さん元気がなさそう。何か困っていることがあるのかな？」「お友達をたたいてしまった■■くんにはどんな声かけをしよう？」というように子どもたちやそのご家庭にアンテナをはり、気づきの場になっていることの凄さを感じました。

またひとつひとつの声かけが、子どもたちやお母さんの気持ちを考えてなされていることも随所に感じました。そして、焦らず、じっくり、あたたかく関わり続ける大切さも教えてもらいました。

支援の専門職の場合、“どんなご家庭か？”“緊急の困りごとはないか？”“どんな制度を使うと困りごとが解消するか”を考えて、できるだけ早く事情を把握して、「問題があれば動く」という考えや関わりになることがあります。でも、子どもたちやご家庭が「緊急ではないけれど、困りごとがある」というとき、そういった関わりではきつとうまくいかないのだろうと思います。目の前の子どもやそのご家庭にアンテナをめぐらせ、気づいたことに悩み考え、そっと声かけを続ける。その先に「繋がりが続ける関係」があり、それが子どもやご家庭にとって大きなエンパワーメントになる。とても大切なことを教えてもらいました。

今回、そんなこども食堂の素敵さを皆さんと共有できる冊子にしたい！という思いでこの冊子を作りました。運営者の方にこども食堂の素敵さと、エールをお届けできていれば私たちもとても嬉しいです。

今回のプロジェクトにご協力いただいたこども食堂の皆様、子どもたちのためにこども食堂を立ち上げられた皆様、コロナ渦でも尽力されているこども食堂の皆様、資金面でご支援いただいたNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様に心から感謝いたします。

本当にありがとうございました。

プロジェクトメンバー 弁護士
伊藤 由子

2021年3月

協力こども食堂

- ・バラエティクラブ八王子
- ・こどもの居場所作り@府中
- ・寺子屋方丈舎
- ・wakka
- ・くすのき子ども食堂実行委員会
- ・こどもプロジェクト
- ・秋田たすけあいネットあゆむ
- ・フードバンク北九州ライフアゲイン
- ・チャイルドケアセンター
- ・石川こども食堂
- ・東吉野村こども食堂
- ・おのみなこども食堂の会
- ・ヨリドコピンポン
- ・よこすかなかながや
- ・あそびとまなび研究所
- ・労協ながの
- ・おやこ食堂「おかえり」・みんなの食堂「ただいま」
- ・チアーズ
- ・すすく広場
- ・TSUGAノわこども食堂
- ・みんなの食堂@府中
- ・ころころ食堂
- ・dattochiみんなの食堂
- ・ハッピーコミュニティ食堂
- ・放課後キッチン・ごろごろ
- ・西東京わいわいクッキング

ヒアリング実施期間：2020年7月～12月

ある日のこども食堂「ちょっと気になる子」との関わり

2021年3月1日

発行 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
理事長 湯浅誠

〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-20-3 西新宿高木ビル7階
Tel: 03-4213-4295
Email: kodomo@musubie.org
公式ウェブサイト: <https://musubie.org>

デザイン 和田直也
イラスト 塩澤亜沙美

プロジェクトメンバー 山角直史／伊藤由子／六鹿篤美／湯浅誠

協賛(助成) 特定非営利活動法人モバイル・コミュニケーション・ファンド
この冊子は、『ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により作成しました。

©2021 むすびえ All rights reserved.

ある日の こども食堂

“ちょっと気になる子”との関わり



NPO法人 全国こども食堂支援センター
むすびえ

アンケートのお願い

最後までお読みいただき、ありがとうございます。
この冊子をお読みになった皆様に、是非ともアンケートのご回答をお願い致します。
お読みいただいた方一人につき1回ずつご回答いただけますと幸いです。
いただいた回答は、今後の事業の発展のために活用させていただきます。

アンケートは下記 QRコード読み取りまたはURLからお願い致します。



<https://forms.gle/j2mQ3kc7RGBs7H1R6>

